

令和3年度

全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要



令和3年10月

柳川市教育委員会

令和3年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

－ 目 次 －

I 調査の概要	2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査内容	
II 学力調査結果の概要	
全国学力状況調査の結果	3
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
福岡県学力調査の結果	6
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
III まとめと今後の取組	8
1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針	
2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題	
3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想	

※ 付記

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び平成令和3年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果以下のホームページにてご参照ください。

○ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」 [URL : http://www.nier.go.jp/](http://www.nier.go.jp/)

○ 福岡県学力調査の結果（福岡県教育委員会ホームページに掲載予定）

福岡県教育委員会 義務教育課

「令和3年度全国学力・学習状況調査調査結果報告書・福岡県学力調査結果報告書」

[URL : https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/r1houkokusho.html](https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/r1houkokusho.html)

令和3年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

○ 全国学力・学習状況調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 6 学年の児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 3 学年の生徒	562 名 499 名
○ 福岡県学力調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 5 学年の児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 1 学年の生徒 ・ 中学校 (全 6 校) 第 2 学年の生徒	573 名 529 名 519 名

3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
○ 全国学力・学習状況調査	令和3年5月27日(木)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)
○ 福岡県学力調査	令和3年6月15日(火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)

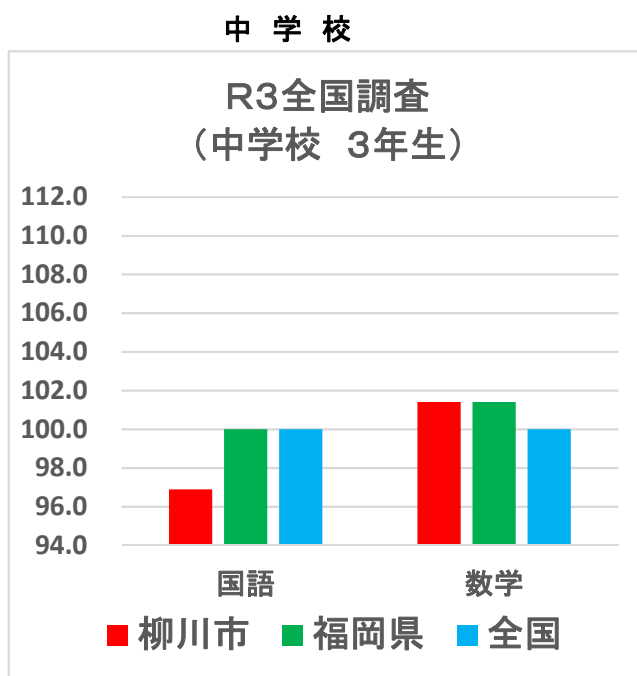
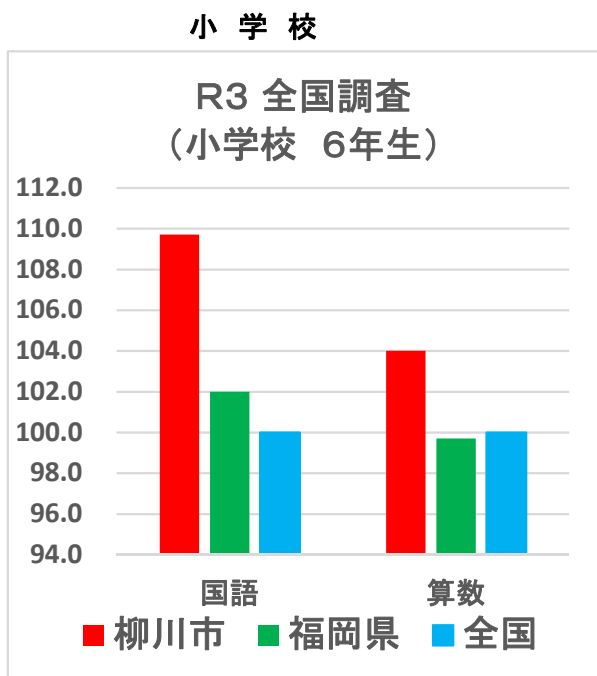
4 調査内容

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
○ 全国学力・学習状況調査 [国語、算数・数学]	
○ 福岡県学力調査 [国語、算数・数学]	○ 福岡県学力調査 [国語、算数・数学]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身につけておかねばならず、後の学年等学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践・評価する力などに関わる内容

Ⅱ 学力の結果

全国学力状況調査の結果

1 柳川市の標準化得点の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）



小学校	国語	算数
柳川市	109.7	104.0
福岡県	102.0	99.7
全国	100.0	100.0

中学校	国語	数学
柳川市	96.9	101.4
福岡県	100.0	101.4
全国	100.0	100.0

【全体の状況】

- 小学校は、国語、算数ともに全国を上回っているが、令和元年度より低下している。（令和元年度の柳川市の平均 国語110.1 算数104.3）
- 中学校は、国語は全国平均を下回っているが、数学は全国を1.4ポイント上回っている。令和元年度より2教科の平均は向上している。（令和元年度の柳川市の平均 国語98.6 数学95.8）
- 平均無回答率（回答していない問題）は、小学校では国語、算数とも全ての問題において全国より低い。中学校国語の無回答率では、14問中2問が全国より高かったが、数学の無回答率は全て全国より低かった。（令和元年度の数学では16問中10問が全国平均より無回答率が高かった）

【小学校】

- 国語は全国より9.7ポイント上回った。評価の観点では、特に、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」の能力が高い。
- 算数は全国より4.0ポイント上回った。領域では数と計算、評価の観点では思考・判断・表現が3.8ポイント全国より高かった。

【中学校】

- 国語は全国より3.1ポイント下回った。令和元年度より1.7ポイント減少したことになる。
- 数学は全国より1.4ポイント上回った。令和元年度より2.8ポイント向上した。過去5年間を見ても全国平均を上回ったことは初めてである。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

（1）小学校国語

- 学習指導要領の内容では、知識・技能、思考力・判断力・表現力等とも全国より正答率が高い。評価の観点の知識・技能では6.5ポイント、思考・判断・表現では4.0ポイント上回り、良好である。
- 問題形式では、選択式、短答式、記述式のいずれも全国より正答率が高い。特に、短答式では、全国より正答率が5.8ポイント上回っていた。
- 「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」は、正答率が全国を16.9ポイントも上回り、良好である。
- 「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」は、正答率が全国を8.7ポイント上回り、良好である。
- 「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」は、正答率が全国を5.2ポイントも上回り、良好である。
- 「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」は、正答率が全国を3.1ポイント下回り、課題である。

（2）小学校算数

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が高い。「数と計算」は5.6ポイント、「図形」は2.4ポイント、「測定」は3.0ポイント、「変化と関係」は2.1ポイント、「データの活用」は1.8ポイント上回り、良好である。
- 16の問題の内、15の問題が全国を上回っている。全般的に理解の定着が進んでいる。
- 「小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数量の場合に適応して、基準値を1とした時に比較量が示された小数に当たる理由を記述する」は、正答率が全国を10.8ポイントも上回り、良好である。
- 「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」は、正答率が全国を7.5ポイント上回り、良好である。
- 「データを二次元の表に分類することができる」は、正答率が全国を6.8ポイント上回り、良好である。
- 「棒グラフから項目間の関係を読み取ることができる」は、正答率が全国を0.3ポイント下回り、やや課題である。

（4）中学校国語

- 領域別では、「話すこと、聞くこと」は正答率が全国より2.4ポイント全国を上回っている。しかし、「書くこと」は0.1ポイント、「読むこと」は3.6ポイント、全国の正答率を下回っている。特に、読む能力に課題がある。
- 「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」は、正答率が全国を2.8ポイント上回り、良好である。
- 「書いた文章を違いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」は、全国を2.4ポイント上回り、良好である。

- 「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」が全国より9.3ポイント下回り、課題である。
- 「相手や場に応じて敬語を適切に使う」は、正答率が全国より9.2ポイント下回り、課題である。
- 「事象や行為などを表わす多様な語句について理解する」は、全国の正答率より7.1ポイント下回り、課題である。

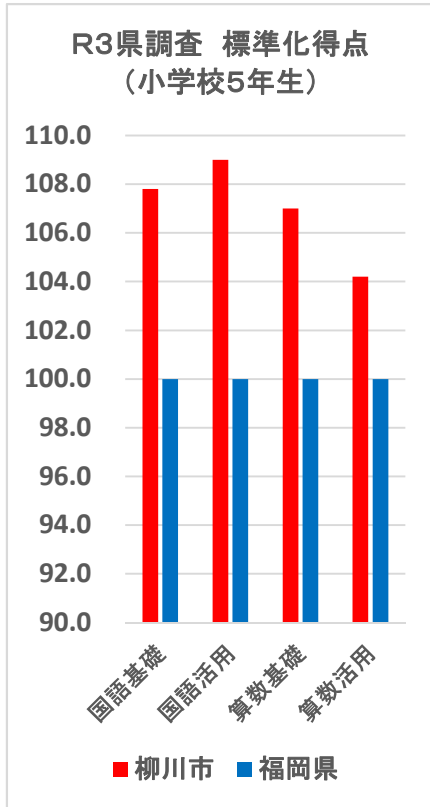
(5) 中学校数学

- 領域別では、「数と式」は2.4ポイント、「関数」は0.6ポイント、「資料の活用」は3.1ポイント、正答率が全国を上回っている。しかし、「図形」は、全国の正答率を2.9ポイント下回った。
- 「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」は、正答率が全国を8.3ポイント上回り、良好である。
- 「具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる」は、正答率が全国を4.8ポイント上回り、良好である。
- 「ヒストグラムからある段階の度数を読み取ることができる」は、正答率が全国を2.0ポイント上回り、良好である。
- 「扇形の中心角と弧の長さや面積四の関係について理解している」は、正答率が全国を8.6ポイント下回り、課題である。
- 「数学的に結果を解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」は、正答率が全国を1.9ポイント下回り、課題である。

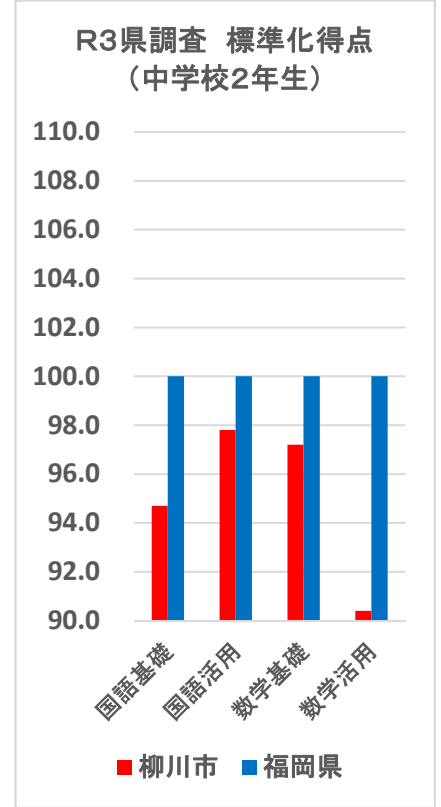
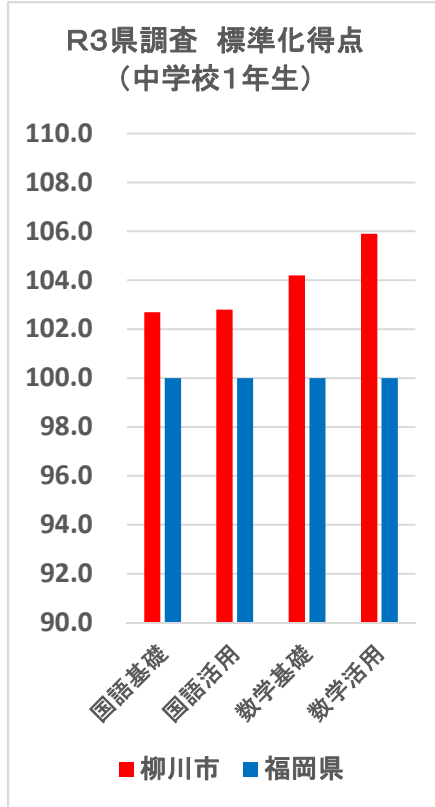
福岡県学力調査の結果

1 柳川市の標準化得点の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

小学校



中学校



小学5年	国語基礎	国語活用	算数基礎	算数活用
柳川市	107.8	109.0	107.0	104.2
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	7.8	9.0	7.0	4.2

中学1年	国語基礎	国語活用	数学基礎	数学活用
柳川市	102.7	102.8	104.2	105.9
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	2.7	2.8	4.2	5.9

中学2年	国語基礎	国語活用	数学基礎	数学活用
柳川市	94.7	97.8	97.2	90.4
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	-5.3	-2.2	-2.8	-9.6

【全体の状況】

- 小学校5年生においては、国語、算数の基礎・活用問題の全てが県を上回っている（+4.2ポイント～+9.0ポイント）。
- 中学校1年生においては、小学校5年生と同様に、国語、数学の基礎・活用の全てが県を上回っている（2.7ポイント～5.9ポイント）。
- 中学校2年生においては、国語、数学の基礎・活用の全てが県を下回っている。（-2.2ポイント～-9.6ポイント）。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

（1）小学校5年生

【国語】

- 「目的や必要に応じて自分の考えの理由を挙げて書くことができる」が、県正答率を6.4ポイント上回っている。
- 「目的や必要に応じて文章の内容を引用することができる」が、県正答率を4.1ポイント上回っている。

- 「故事成語の意味と使い方を理解することができる」が、県正答率を3.6ポイント下回っている。
- 「主語と述語との関係に注意して、文を正しく書くことができる」が、県正答率を1.9ポイント下回っている。

【算数】

- 「示された加法に関して成り立つ性質をもとにした計算の仕方を理解している」が、県正答率を7.0ポイント上回っている。
- 「1組の角の大きさがわかっている平行四辺形の、もう1組の角の大きさの求め方を説明することができる」が、県正答率を3.1ポイント上回っている。
- 「平行四辺形の作図に用いられる図形の性質を理解している」が、県正答率を3.5ポイント下回っている。
- 「つくった台形を2つ使って、ずらしたり、向きを変えたりして、つくることのできる形を選ぶことができる」が、県正答率を2.6ポイント下回っている。

(2) 中学校1年生

【国語】

- 「図表やグラフを用いた目的を捉えることができる」が、県正答率を4.5ポイント上回っている。
- 「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができる」が、県正答率を3.2ポイント上回っている。
- 「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることができる」が、県正答率を2.9ポイント下回っている。

【数学】

- 「示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考慮し、式に表現することができる」が、県正答率を6.5ポイント上回っている。
- 「仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を説明することができる」が、県正答率を4.6ポイント上回っている。
- 「棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ることができる」が、県正答率を2.7ポイント下回っている。

(3) 中学校2年生

【国語】

- 「本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる」が、県正答率を3.9ポイント上回っている。
- 「話合いの話題や方向を捉えることができる」が、県正答率を1.5ポイント上回っている。
- 「文章の展開に即して内容を理解することができる」が、県正答率を3.2ポイント下回っている。

【数学】

- 「与えられた情報を適切に判断し、同じ関数関係になる事象を選択することができる」が、県正答率を7.4ポイント上回っている。
- 「平行移動の意味を理解している」が、県正答率を6.0ポイント上回っている。
- 「度数分布表から最頻値を読み取ることができる」が、県正答率を4.8ポイント上回っている。
- 「事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる」が、県正答率を2.3ポイント下回っている。

Ⅲ まとめと今後の取組

1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針

柳川市総合計画、柳川市教育大綱、教育施策に基づき、小・中学校9年間にわたって「学ぶ目的意識の醸成」を図りながら、確かな学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）を身につけさせ、未来の柳川を担う子どもを育成すること。

2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題

(1) 小学校

- 全小学校において、国語科教育の充実として校内研修(主題研修または一般研修)に位置付けたり、学習のまとめを徹底したりしたことが、学力向上への要因のひとつと考えられる。
- 柳川市教育研究所において作成した「授業づくりQ&A」を活用したことが効果的だったと考えられる。また、特別活動を重視して代表委員会活動を充実させたことも効果的だったと考えられる。

(2) 中学校

- 全中学校において思考力を育てるための校内授業改善研修会や自分の考えを書く活動を位置づけた授業づくりをしたことが学力向上につながってきている。
- 学校間、教科間、学年間の格差があるが、全中学校で落ち着いた学校生活を送っていることも向上している要因であると考えられる。
- 教師の授業力のさらなる向上は課題である。授業研究を伴う研修の強化が求められる。

(3) 小・中学校共通

- 本市が重視している計画・実施・評価・改善の教育活動が各学校で実施されている。また、児童・生徒のよい点や可能性を見だし、評価する取組もしっかりと推進されており、学力向上に結びついていることが伺える。
- 全校において学力分析から確実に学力を向上させるための取組指標や成果指標等の学力向上プランが策定され、取り組まれている。
- 中学校区内において、近接小・中学校と授業研究会等の合同研修会を年間3回以上実施し、共通的に取り組む内容等として「中学校区スタンダード」に取り組んだことが学力向上に結びついていると考える。今後も継続的な取組が求められる。
- 小・中学校共に、将来の夢や目標を持つことや、自分から違う意見を言い合うことに肯定的に考える児童生徒の割合が少ない。このことが学力向上の妨げになっているかもしれない。

(4) 家庭との連携

- 家庭における計画的な学習の進め方の確立や学習時間の確保、家庭での読書時間の確保が求められる。
- 本市の児童・生徒の携帯電話やスマートフォンの所有が増える中、それらの使用についてのルールが不十分な傾向が見られる。テレビ視聴時間を含めて、PTAと連携しながら取り組む必要がある。

3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想

(1) 柳川市教育委員会

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・調査結果の分析・各学校の取組状況の確認・指導・若年教員指導力向上訪問指導・9年間を見通した小・中学校の共通実践・教育研究所プロジェクト事業の推進（プログラミング教育 小・中） | <ul style="list-style-type: none">・学力向上の基本構想の策定・学力向上のための指導主事派遣・授業時数実施状況の確認 |
|--|--|

(2) 小学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・教材研究の力を向上させる校内研修の充実(模擬授業等の事前研究会の工夫)・中学校とのつながりを意識した教育活動の実施・若年教師の授業力の向上を図る研修会等(OJT)の実施 |
|---|

(3) 中学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・模擬授業や事例研究を含めた授業を伴う実践的な研修の実施・全職員による自校の学力分析と学校全体での改善・週案の定着と活用 |
|--|

(4) 小・中学校共通の取組

【各小・中学校で共通で実践する項目】

- | | |
|--|---|
| <p><小・中学校></p> <ul style="list-style-type: none">◎地域と連携した「中学校区スタンダード」の実践◎GIGAスクール構想の実践化 <p><小学校></p> <ul style="list-style-type: none">◎国語科教育の充実<ul style="list-style-type: none">・読む力の高まりを子どもにも意識させる振り返り活動・「授業づくりQ&A」の活用◎特別活動の重視<ul style="list-style-type: none">・代表委員会活動の充実・地域行事等への参加○学校環境の充実<ul style="list-style-type: none">・重点目標→学級目標→個人目標 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none">◎思考力を育てる授業づくり<ul style="list-style-type: none">・校内授業研究改善研修会の実施・自分の考えを書く活動の位置付け◎特別活動の充実<ul style="list-style-type: none">・重点目標と連動した生徒会目標、活動・地域行事への参加○読書の推進<ul style="list-style-type: none">・読書量の増加 | <ul style="list-style-type: none">◎可燃ゴミ減量活動の実践○補充学習の徹底 |
|--|---|

【教育課程外において】

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">◎補充学習の充実<ul style="list-style-type: none">・評価に基づく補充学習の充実・各学校教育課程外に位置づけているドリルタイム、補充の時間の充実○家庭学習の充実<ul style="list-style-type: none">・家庭学習をしない児童・生徒0%を目指す取組の充実(授業との連動、確実な見取り、保護者との連携等)・携帯電話やスマートフォン使用に関するルールの啓発 |
|---|

令和3年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

『調査結果報告書(柳川市)』

令和3年10月発行

発行者 柳川市教育委員会
福岡県柳川市三橋町正行431番地
電話0944-77-8852(教育指導室)
